

# 平成20年度中国地方整備局総合評価審査委員会 開催結果の概要

1. 日時：平成21年3月12日（木）13：30～15：45

2. 場所：KKRホテル広島 2F 安芸

3. 出席委員：第1部会	会長	米倉 亜州夫	広島工業大学工学部都市建設工学科
第1部会	委員	今岡 務	広島工業大学環境学部環境情報学科
第1部会	委員	藤原 章正	広島大学大学院国際協力研究科
第2部会	委員	上田 茂	鳥取大学大学院工学研究科
第2部会	委員	鎌倉 秀章	中国経済連合会専務理事

4. 議事次第：

- (1) 入札・契約の現状と平成21年度の方針（案）
- (2) 平成20年度総合評価方式の実施報告
- (3) 平成21年度総合評価方式の実施方針（案）
- (4) 平成21年度 業務の「総合評価落札方式」・「プロポーザル方式」の実施方針（案）

5. 主な意見の概要

- (1) 入札・契約の現状と平成21年度の方針（案）
  - ・高度技術提案型の適用工事が無いのはなぜか。
    - 高度技術提案適用工事は、通常工法では工期等の制約条件を満足出来ない場合、構造形式等が複数考慮できる場合、社会的便益が相当程度向上する事を期待する場合は該当するのだが、当年度は適当な案件が無かった。
    - 他地整の事例等を踏まえ、適宜改善を図りつつ、引き続き採用していく所存。
- (2) 平成20年度総合評価方式の実施報告
  - ・技術提案のテーマ別加算点取得率が、同じコンクリートでも覆工、上部工コンクリートに比べて、下部工、函渠工コンクリートは取得率が低いとその理由は。
    - 覆工はトンネル工事で参加企業がAランク上位企業、上部工はPC専門の企業が提案するため、地元企業の参加の多い下部工等より取得率が高いと考えられる。
  - ・施行体制確認型を適用していない工事があるが、どのような工事か。
    - 予定価格1千万円以下及び1億円未満で年度当初から契約する必要のある維持工事等については試行対象工事としていなかった。
- (3) 平成21年度総合評価方式の実施方針（案）
  - ・現場代理人の経験の加算とするのは。
    - 主任（監理）技術者は建設業法により専任の義務を、現場代理人は工事契約書において常駐義務を付している。実質的に同様の義務を負っているので加算項目とした。
    - ただし、加算点に関しては、主任（監理）技術者は工事施工の技術上の管理を行い、現場代理人は請負人の代理の位置付けであるので、主任（監理）技術者の1/2が妥当と考えた。

日時：平成21年3月12日（木）13：30～15：30  
場所：KKR広島 2階「安芸（大）」の間

## 平成20年度 中国地方整備局総合評価審査委員会

### 議 事 次 第

1. 開 会

2. 挨拶（中国地方整備局長）

3. 委員紹介

4. 議 事

#### 【工事関係】

1) 入札・契約の現状と平成21年度の方針（案）

2) 平成20年度 総合評価方式の実施報告

3) 平成21年度 総合評価方式の実施方針（案）

#### 【業務関係】

4) 平成21年度 業務の「総合評価落札方式」・「プロポーザル方」の実施方針（案）

5. 閉 会